

学級活動（２）指導案

3年3組31名 指導者 小城 孝洋

本実践では、以下の検証を行うものである。

- 解決法を考える際に、ポスターセッションの形態を用いて、短時間で多様な考えを引き出し、「個の考え→班の考え→全体の考え」の流れに沿ってアイデアを出し合わせる活動は、自分にあった自己決定をさせる手立てとして効果的であったか。

1 題材名 家庭での勉強の仕方 (学級活動(2)-ア)

2 子どもの実態

題材に関わる子どもの実態は、次の通りである。

調査実施日：平成24年4月12日（木）調査人数：31名（男子15名 女子16名）複数解答可

- 普段どこで宿題をしていることが多いですか。
 - ・自分の部屋 21名 ・リビングや台所 10名
- なぜその場所で行っているのですか。
 - ・自分の部屋だから 16名 ・集中できるから 10名
 - ・親の近くでしないといけないから 5名
- 宿題はいつしていますか。
 - ・帰ってからすぐ 20名 ・遊んだあと 7名 ・夜ご飯を食べたあと 4名
- なぜ宿題をするのですか。(複数解答可)
 - ・決まったことだから 25名 ・怒られるから 16名 ・大切なことだから 10名
- 宿題をするときに大切なことはなんでしょうか。(複数回答)
 - ・集中してする 24名 ・帰ってきてからすぐにする 8名 ・丁寧に書く 16名
 - ・必ずする 10名

本学級の子どもは、漢字と日記が一緒になった家庭学習ノートを使い、家庭学習に毎日取り組んでいる。3年生になったばかりということもあり、多くの子どもが毎日欠かさず意欲的に取り組んできている。一方で、内容面を見てみると、「字を丁寧に書いていない。」「日記の題材を工夫して書いていない。」などの課題が見られ、取組が十分でない状況の家庭学習ノートも見られる。

また、宿題について、その取り組み方については、ほぼ全員提出していることから、「やらなければならない。」ということは意識できている。しかしながら、その重要性や意義については、「怒られるから。」「決まったことだから。」のように、自分のためになるというよりも、「やらされている。」という意識が強いことが分かる。

3 題材について

3年生の子どもは、決められた課題については、必ず取り組むべきことであり、大切なことであることは十分に理解している。しかしながら、子どもの実態から考えると、自ら進んで家庭学習に取り組んでいない状況にあることが分かる。したがって、中学年になったこの時期に自ら進んで家庭学習に取り組んでいこうとする態度を養い、家庭学習の習慣化を図ることは大切なことと考える。

そこで本題材では、家庭学習に取り組むことは、今後の学校生活や家庭生活においても基本的な習慣を身に付けることになり、学力面を含め自分の一層の成長につながるということを捉えさせたい。また、得意なことを更に伸ばしたり、苦手なことを少しずつ解消したりするなど、自分を見つめ、自ら進んで学習に取り組もうとする意欲ももたせたい。このような活動を通して、中学年になったこの時期に、今までの自分の家庭での学習の仕方を振り返り、意欲をもって家庭学習に取り組んでいく態度を育てていきたいと考えた。

4 指導に当たって

指導に当たっては、まず、事前に家庭学習に関するアンケートを子どもと保護者に実施し、本時を進める際の参考資料となるように活用する。

次に、本時では導入で、普段の家庭学習の様子の絵を示し、自分の家庭学習の姿を想起させる。更に、家庭学習の取組についてのアンケートの結果を示すことで、「みんなも言われてからしている。」のように、自分と同じような実態であることに気付かせる。また、事前に行った家庭学習の取組に関する保護者アンケートの結果を示すことで、自ら進んで学習に取り組んでいないことに対する課題意識を導きたい。話し合いでは、ポスターセッションの形態を取り入れ、個で考える時間、班で考える時間、全体で考える時間を

設定することで、短時間で多様な考えを引き出し、適切な自己決定が行えるようにする。さらに、自分の家庭学習の課題に気付かせ、友達の家庭学習の取組に対するアイデアを交流することで、自分の課題を解決していくヒントを得て、実践につなげていく機会としたい。実践では、「キラニコたく習週間」を設定することで、自分が改善していくと決めた取組に対して、継続して取り組むことが自分の自信や成長へつながることを感じることができるようになる。また、保護者にも協力していただき、「キラニコたく習週間」で使用するカードに励ましのコメントを記入してもらうことで、子どもの意欲を更に高めることができるようにする。

終末では、互いに感想を交流することで、望ましい学習の在り方を知り、頑張っ取り組んでいくことの大切さやその先にある自分の成長についても意識させることができ、自分の変容を感じることができるようになる。

最後に、事後の活動では、設定した「キラニコたく習週間」で使用する頑張りカードに、保護者からコメントを記入してもらい、担任も毎日、見届けを行うことで、意欲付けを図ることができるようにする。

5 第3学年及び第4学年の評価規準

- 自分の家庭学習をより充実したものになるように家庭学習の仕方について振り返り、自分の課題解決に進んで取り組もうとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- より充実した家庭学習ができるように、これまでの家庭学習の課題が分かり、自らの課題を解決する方法を考え、互いに意見を交流し実践している。 【集団の一員としての思考・判断・実践】
- 家庭学習の意義が分かり、家庭学習の仕方を理解している。 【集団活動や生活についての知識・理解】

6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	4/12	1 自分の家庭学習の様子について考える。	○ 自分の家庭学習の様子をアンケートに記入させる。	㊦自分の家庭学習の様子を想起しながらアンケートを書いている。 〈アンケート〉
本時	5/18	1 普段の家庭学習の様子を振り返り、家庭学習の意義や取り組み方について考える。 2 今後取り組んでいくことを自己決定する。	○ 事前に行ったアンケートの結果を提示し、自分の課題に気付かせる。 ○ ポスターセッションの形態を取り入れ、友達のアイデアを交流することで、改善策を自己決定しやすくさせる。 ○ 自分が改善していくことを自己決定させる。	㊦家庭学習の取り組み方について、友達の考えを参考にしながら改善していくべきことを考えている。 〈観察、ノート〉 ㊦自分が改善していこうと決めたことに取り組もうとしている。 〈観察、ノート〉
事後	5/21	1 自己決定したことを実践する。	○ 決めた取組について継続して取り組んでいる子どもを称賛する。	㊦自己決定したことを実践している。 〈観察、ノート〉

7 本時の活動

(1) 目標

家庭での学習に対する取り組み方について振り返り、家庭学習の意義を再確認し、自分の取り組み方を改善していこうとする意識を高める。

(2) 評価規準

- 自分の学習をより充実したものになるよう家庭学習の仕方について考え、自分にできることを取り組もうとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

まず、集中せずに家庭学習に取り組んでいる様子を表した絵や、家庭学習の仕方に関するアンケート結果を提示することで、普段の自分の取組の姿を想起させ、「いつもの自分の学習の仕方と一緒に。」のように、みんなも同じだという思いをもたせるようにする。

次に、集中して学習していないことや丁寧に書くことを心掛けていないこと、保護者から言われないと学習を始めないことなど、保護者から見た取組の様子について、今の学習の仕方が十分ではないということに気付かせるために、事前に家庭学習の様子などについて尋ねた保護者アンケートの結果を円グラフに表す。ここでは、併せて保護者からの願いを子どもに伝え、「このままではいけない。どうにかしなければならぬ。」のように、子どもが課題意識をもって頑張っていこうという思いをもたせるようにする。そして、学級目標に注目させ、「キラニコ」という1つの目標に対してみんなで頑張っていこうとする思いを意識させ本時のめあてを設定する。

解決法を考える際には、ポスターセッションの形態を用い、「個の考え→班の考え→全体の考え」の流れに沿ってアイデアを出し合うことで、自己決定しやすくする。考えを広め、解決のヒントを得ることで、「そんな方法もあるのか。これなら取り組んでいけそうだ。」のように、継続して頑張っていこうとする意欲を高めることができるようにする。

振り返り際には、本時で学んだことと今までの自分の姿を照らし合わせ、自分の課題に対しての改善策を自己決定させる。そうすることで、子どもに自信をもたせたり、子ども自身に成長につながるという思いをもたせたりすることができ、これからも頑張っていこうとする前向きな態度を育てることができるのではないかと考えた。

(4) 本時の展開

時間	活動内容	予想される子どもの意識	○ 手立て □ めざす子どもの姿
10分	1 普段の家庭学習の取組について想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れずに宿題をしている。 ・毎日やるべきことだな。 ・お母さんに早くしなさいと言われることが多いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵を提示することで、普段の家庭学習の取組を想起できるようにする。 ○ 家庭学習がうまくいっていない原因についての事前アンケートの結果を示すことで、共感的にな雰囲気を作ることができるようにする。
	振り返り		
	2 保護者アンケートの結果を見て感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは、言われなくても自分で進んでほしいんだな。 ・分かってはいるんだけど、なかなかうまくいかない。 ・みんなどうしているのかな。 ・みんなが「キラニコ」になるために、頑張ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者アンケートの結果を提示することで、自分の家庭学習の取組の甘さに気付くことができるようにする。 ○ 家庭学習についての今の自分の姿を発表させ、めあてに焦点化させる。 ○ 学級目標の「キラニコ3組」を合言葉にすることで、自分たちがもっと成長するために、1つの目標に向かってみんなで頑張ってやり遂げようとする意欲をもつことができるようにする。
30分	3 本時のめあてを確認する。	<p>3年3組のみんなが「キラニコ」になるために学習の仕方について考えよう。</p>	
	必要性		
	4 家庭学習がうまくいかない原因を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・途中で違うことをしているな。 ・テレビをつけたまましていることがあるな。 ・取りかかるまでに時間がかかっているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習に関するアンケート結果を再確認することで、自分の原因を意識して家庭学習をよりよくしていこうとする意欲を高めるようにする。
	5 家庭学習に対する姿勢について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のためになるからまじめに取り組まなきゃ。 ・毎日必ず出すべきものだ。 ・言われなくてもするものだ。 ・丁寧に取り組むものだ。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かっているが実行できないのは、意欲面だけではなく、具体的な解決策がないことにあることを気付かせることで、班での話し合いにつなげるようにする。
	6 家庭学習への取組を充実させるアイデアを紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・これなら自分もできそうぞ。 ・みんなと話し合うっていいな。 ・ぼくは1つだけでもいいからぜったいにやり遂げるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いにおいては、ポスターセッションの形態を取り入れることで、短時間で多様な考えを引き出し、紹介し合うことができるようにする。
5分	7 「キラニコたく習週間」で取り組む解決策について自己決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の頑張ることがきまったぞ。 ・最後までやり遂げてみせるぞ。 ・毎日忘れずに宿題を出すぞ。 ・丁寧に書くことを頑張ろう。 ・言われなくても自分から進んでするぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「キラニコたく習週間」を設定し、自分の改善していくことに対して意欲をもって取り組めるようにする。 ○ 自分の家庭学習で改善したいことを考え、解決策を自己決定しようとし、継続して取り組もうとしている。 (ワークシート)
	8 活動を通じた感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級のみんなで何かを頑張っていくっていいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感想交流を通して、実践化に向けた意欲付けを図る。

